

1. とうもろこしのシカゴ定期は、8月には米国産地で生育に適した天候になったことなどから、330セント／ブッシェル前後で推移していた。その後、米国産地や南米産地での高温乾燥による作柄悪化懸念や、中国向けを始めとした米国産とうもろこしへの旺盛な輸出需要により急騰し、現在は430セント／ブッシェル前後で推移している。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、9月上旬には米国産地の高温乾燥による大豆の生育悪化懸念を背景に340ドル／トン前後まで上昇していたが、中国による旺盛な需要を背景に米国産大豆の輸出数量が増加したことなどから、10月には400ドル／トン前後まで急騰した。その後も、生育期に入った南米産地での高温乾燥による生育悪化などから上昇が続き、現在は440ドル／トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、8月上旬には45ドル／トン前後で推移していたが、米国の穀物輸送需要が堅調なことで、一時50ドル／トン台まで上昇した。その後は南米積み穀物輸送需要や中国向けの石炭輸送需要が一段落したことから、現在は45ドル／トン前後となっている。
4. 外国為替は、9月には106円前後で推移していたが、米国の低金利政策が長期化していることや、米国議会でねじれが生じる可能性が高まるなど、米国の政局運営への不安感から円高がすすみ、現在は104円前後で推移している。

